

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
東北電子専門学校		昭和51年3月31日		吉田 博志		〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院一丁目3番1号 (電話) 022-224-6501			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人日本コンピュータ学園		昭和61年10月22日		持丸 寛一郎		〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院一丁目3番1号 (電話) 022-224-6501			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程		モバイルアプリケーション科		平成26年文部科学省 告示第7号	—			
学科の目的 常に進化、多様化し続けるモバイル機器に対応した業務アプリケーションの開発を行うために必要な専門的スキルを持つITエンジニアを育成する。									
認定年月日 平成27年2月25日									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技	
2	年	昼間	2052 時間	370.5時間	28.5 時間	1852.5時間	0 時間	0 時間	
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人		21人		0人	5人	2人	7人		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:5段階での評価が2以上(評価点が60点以上)を合格とする 評価の方法:定期試験・レポート及び授業に取り組む姿勢をもとに評価する			
長期休み	■学年始:4月1日～4月8日 ■夏 季:7月24日～8月23日 ■冬 季:12月24日～1月7日 ■学年末:3月22日～3月31日				卒業・進級 条件	卒業要件: ・学期に定める教育課程をすべて受講し、その成績評定が合格であること。 ・年間800時間以上履修していること。 ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,400時間以上履修していること。 進級要件: ・学期に定める教育課程をすべて受講し、その成績評定が合格であること。 ・年間800時間以上履修していること。			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 成績不振、長期欠席等の生徒に対し、担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問や保護者を交えた面談				課外活動	■課外活動の種類 卒業制作展、仙台まち美化サポーター			
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) (株)イッツ・コーポレーション (株)テクノプロ (株)ねこまた 他IT系企業				主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■サークル活動: 有			
	■就職指導内容 担任と就職センター専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシート書き方講座」「面接対策講座」等のセミナーや講座を実施					■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)			
	■卒業者数 : 8 人					資格・検定名			
	■就職希望者数 : 8 人					種別			
	■就職者数 : 8 人					受験者数			
■就職率 : 100 %				合格者数					
■卒業者に占める就職者の割合 : 100 %									
■その他 ・進学者数:0人									
(令和 3 年度卒業者に関する 令和4年5月1日 時点の情報)									
中途退学 の現状	■中途退学者 0 名 ■中退率 0 % 令和3年4月1日時点において、在学者 20名 (令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者 20名 (令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座								
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特別奨学金制度、試験特待生制度、資格特待生制度、親族入学優遇制度 ■専門実践教育訓練給付:給付対象 前年度の実績:1人								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無								
当該学科の ホームページ URL	https://www.jc-21.ac.jp/course/ib/sa/								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
本科の教育課程の編成においては、モバイルシステム開発について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会(Web・モバイル分野)」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。
委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本科では、次の過程を経て教育課程を編成、決定する。

1. 本科教員により、教育課程について検討し、改善案を作成する。

2. 「教育課程編成委員会(Web・モバイル分野)」(年に2回以上開催)において、現行教育課程及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。

3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、新教育課程を決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
齋藤 善洋	一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
本宮 真仁	株式会社 メンバーズ	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
丸山 秀行	インクレイブ株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
山崎 徹	東北電子専門学校 学科主任(委員長)	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	
高桑 博道	東北電子専門学校 教務課長(副委員長)	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	
種田 裕一	東北電子専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数:年2回開催 開催時期:毎年9月及び2月(予定)

(開催日時)

第1回 令和3年9月30日 17:00～18:00

第2回 令和4年3月25日 17:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

各委員から、現在の開発現場で主に使用されている開発ツールや言語等に関する情報を得た。これらの情報をカリキュラムに反映する妥当性を学内で検討した後、以下の内容を教育課程に反映させることにした。

1. ハイブリッドアプリの開発案件に対応できる学生を育成するために、flutter, Dartの学修をカリキュラムに取り入れることにした。

2. Webシステム開発の学修において、SPA()の開発技術を学ぶことの重要性が指摘された為、Vue.js を取り入れることにした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な能力を育成するために、最新のモバイルシステム開発に知見のある企業等と組織的な連携を取った実習が重要であると考えている。連携については、知識・技術の学修に加えて、チーム開発の遂行に必要なヒューマンスキルも重視する。

また、企業の選定にあたっては、実践的なアドバイスを受けることで必要なスキルの修得をはかるために、現役のモバイルアプリエンジニアを派遣できる企業を選定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

連携している企業の業務内容に即したカリキュラムを組んで実践している。はじめにフロントエンド開発を行うITエンジニアに求められるデザインの基礎理論について学修する。色、形、文字の組み合わせによるデザインの基礎を学修した後、RFPをもとにバナーを作成する実習を行う。

続いてUXの手法を用いた開発について学修する。顧客の行動分析から問題点を抽出し、問題解決にいたるシナリオを作成してプロトタイピングの形でUIに反映させるプロセスを学修する。実習終了時には、グループ毎に学習成果を発表し、講師がUX、UI実現可能性の観点から評価する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
プログラミング言語Ⅰ	アプリの企画からペーパープロトタイプの作成までを、UXの手法を用いて行う。	株式会社メンバーズ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学校は、教員に対する研修の必要性を把握し、その必要性に応じて研修計画を策定し、計画に基づいて研修を実施する。その内容として、専攻分野の実務に関する知識や技術及び授業や生徒に対する指導力等を修得させ、教員の能力及び資質等の向上を図る。必要な場合は、他の機関や企業等と共同して又は外部の機関に委託して研修を行うことがある。これらについては、「学校法人日本コンピュータ学園 教員研修規定」に定めており、この規定に基づいて研修を実施している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

「AI・IoT教育」に関する研修

内容：クラウド化されたIoTサービス「obniz」の利活用に関する知見を得た。加えてAIの実装能力を向上させる教育プログラムの詳細を学んだ。

連携：教育課程編成委員会会議での指摘を受けて、授業で取り上げるアプリの種別を業務アプリ寄りにすることを検討する。その中でAI・IoT技術を利用した高度な業務アプリの実装スキルを獲得する必要があると判断した為受講した。

対象：学科教員

日時：令和3年5月

講師：株式会社obniz、エッジテクノロジー株式会社 各担当講師

② 指導力の修得・向上のための研修等

「発達障害について」～事例を通しての理解と対応～

内容：発達障害に関する法律、発達障害の事例、医療や福祉サービスとの繋がり方、家庭との関わり方を理解し、それぞれのケースに応じた対応を学ぶ研修

連携：宮城県専修学校各種学校連合会の企画・主催の中堅教員に対する研修

対象：代表教員4名が受講し、受講後は新任教員に対して報告研修を行った。

日時：令和3年12月9日(木) 13:30～16:30

講師：宮城県発達障害者支援センター 佐藤 寛崇 氏

「アクティブラーニングについて」

内容：専門学校でも求められる学生の主体的な学びを促す取り組みについての研修

連携：宮城県専修学校各種学校連合会の企画・主催の研修

対象：代表教員4名が受講し、受講後は全教員を3グループに分け報告研修を行い研修内容の周知を図った

日時：令和4年3月3日(木) 14:15～16:00

講師：プランニング開 松村 弘美 氏

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

「ハイブリッドアプリ開発」に関する研修

内容： 特定のOSに依存しないスマートフォン向けアプリの開発、flutterに関する研修をオンラインで受講する予定。
連携： 昨年度の教育課程編成委員会会議において、OSに依存しないアプリ開発の案件が増加している傾向があるとの指摘を受けたことからReactNativeの研修を受講したが、教材化が難しいと判断した。この分野について再度検討を重ね、現在開発現場での利用が増加しているflutterによる開発手法を学ぶことにした。受講にあたっては、数多くの開発実績があるエンジニアによる講義を受ける予定。

対象： 学科教員

日時： 令和4年8月～12月

講師： 未定

②指導力の修得・向上のための研修等

「遠隔授業」に関する研修

内容： 新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的として昨年度行った遠隔授業は、各教員が試行錯誤を繰り返しながら実施してきた。この研修では、遠隔授業の効果的な授業方法や注意点について学ぶとともに、これまで各教員が身に付けてきた遠隔授業に関するノウハウを共有する。

連携： 連携企業から、「コロナ禍におけるリモートワークはある程度の効果がでている。コロナの感染拡大をきっかけに、今後の働き方は大きく変わっていくと思われる。学生のうちからオンラインによる会議やディスカッションに慣れておくことで、入社後の業務を円滑に進められるようになる。学校には効果的な遠隔授業の実施について研究していただきたい。」との助言にもとづき、東北電子専門学校が企画し全教員を対象として実施する研修。

対象： 全教員

日時： 令和4年8月(予定)

講師： 連携企業の講師を予定

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

毎年実施している自己評価の評価結果について、客観性・透明性を高めるとともに、関係業界との連携協力による学校運営の改善を図るため、卒業生及び職業実践専門課程として推薦する学科(以下、「当該学科」という。)の専攻分野に関する業界関係者等を委員とする『学校関係者評価委員会』(以下、「委員会」という。)を設置し、学校関係者評価を行うものとする。

委員会は、学校の重点目標、計画、自己評価等について評価し、特に当該学科については、その教育目標、育成人材像、教育課程の編成、キャリア教育、資格取得の指導体制等について重点的に評価を行うとともに、その評価結果や今後の改善方策についてとりまとめ、広く公表する。

学校は、これを自己評価結果とともにその後の改善方策の検討において活用し、教育活動及びその他の学校運営の継続的な改善を行い、専修学校教育の目的に沿った質の保証・向上に資するものとする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目的	a. 理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) b. 学校における職業教育の特色を示しているか c. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか d. 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか e. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	a. 目的等に沿った運営方針が策定されているか b. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか c. 運営組織や意志決定機能は、明確化され、有効に機能しているか d. 人事、給与に関する制度は整備されているか e. 各部門の組織整備など意志決定システムは整備されているか f. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか g. 教育活動に関する情報公開が適切になされているか h. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	a. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか b. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか c. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか d. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか e. 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか f. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか g. 企業や専門家の意見、評価を受け、より実践的な能力を修得する機会が整備されているか h. 授業評価の実施・評価体制はあるか i. 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか j. 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか k. 必要な場合は業界と連携して、人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか l. 関連分野における先端的な知識・技能等の修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか m. 職員の能力開発のための研修等が行われているか

(4) 学修成果	a. 就職率の向上が図られているか b. 資格取得率の向上が図られているか c. 退学率の低減が図られているか d. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか e. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	a. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか b. 学生相談に関する体制は整備されているか c. 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか d. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか e. 課外活動に対する支援体制は整備されているか f. 学生の生活環境への支援は行われているか g. 保護者と適切に連携しているか h. 卒業生への支援体制はあるか i. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか j. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	a. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか b. 学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか c. 学生が自主的に学修するための環境が整備されているか d. 防災、防犯に対する安全管理体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	a. 学生募集活動は、適正に行われているか b. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか c. 学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	a. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか b. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか c. 財務について会計監査が適正に行われているか d. 財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	a. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか b. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか c. 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか d. 自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	a. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか b. 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか c. 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	a. 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか b. 受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか c. 学修成果が国内外で評価される取組を行っているか d. 学内で適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

本校では今後DXを本格的に展開していく旨を伝え、業務効率化を目的とした情報システムの更新計画（志願者受け入れシステムやRPAの導入）に関する説明を行い、多くの委員から高い評価を頂いた。次年度にはWeb出願システムを導入し、出願者や保護者の利便性向上と業務の効率化を図る予定である。また、今後も更なる業務改善に向け、DXを実現していく上での情報システムに関する現状の課題やその対応策を中心に議論を行い、計画的に情報システムの更新を行っていく。

また、ICT活用を推進するため、教育・学習環境をサポートするネットワーク基盤整備の重要性を指摘いただき、学内・学生寮のネットワークを高速化し、無線LAN環境などを充実させ、遠隔授業等多様な授業形態を提供できるようになり、教職員や学生の利便性が向上した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
菊田 正信	卒業生	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生
川端 拓郎	株式会社 ARCA	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
本宮 真仁	株式会社 メンバーズ	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
角田 透	株式会社 JC-21教育センター	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
神田 堅太郎	リコージャパン 株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
川島 健太郎	株式会社 ヒノタマ	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
小澤 賢侍	公益財団法人 画像情報教育振興協会	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	業界団体
庄司 直人	株式会社 リード・サイン	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
岸浪 行雄	株式会社 東北共立	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
水本 豊	株式会社 ミヤギテレビサービス	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
千葉 清純	一般社団法人 宮城県建築士事務所協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	業界団体
笠松 博	宮城県産業技術総合センター	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 浩之	株式会社 アルゴグラフィックス	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 富士夫	宮城県電気工事工業組合	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	業界団体

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法: ホームページで公開 URL: <https://www.jc-21.ac.jp/report/hyoka/>

公表時期: 毎年7月中旬に更新

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、学校教育法、私立学校法で定められた目的を実現するための教育機関として、教育活動の活性化や学校運営の円滑化を図るとともに、企業等との繋がりを強め、連携推進に資するために情報公開を行う。

提供する情報は、学生及び保護者、入学希望者、企業関係者等に対して、学校の教育目標・教育活動の実績・キャリア教育等の教育基礎情報を始め、学校評価等の学校全体の状況に関することとする。

なお、提供に当たっては、個人情報の取扱いに留意するとともに公正な情報の表示に努めるものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	設置者名、学校名、所在地、連絡先、理事長名、校長名、教職員数、学生数、教育理念、事業計画、学校の特色、沿革
(2) 各学科等の教育	修業年限、募集定員、学科案内(学科の特色、取得を目指す資格、職種、学びのステップ)、カリキュラム、入学者数、資格取得実績、卒業者の進路
(3) 教職員	教職員数、教員組織・担当科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職指導、就職支援プログラム、各種連携・連携教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動、教育施設・設備(校舎概要、主な施設・設備の特色、主な実習設備、その他施設・設備)
(6) 学生の生活支援	学生支援体制、学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	初年度学費一覧、入学手続き金の分割納入について、授業料等の分割納入について、学費サポート制度(特別奨学金制度、試験特待生制度、資格特待生制度、親族入学優遇制度、日本学生支援機構奨学金、国の教育ローン、新聞奨学生制度、教育ローン)
(8) 学校の財務	財務情報(資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表)
(9) 学校評価	学校評価、自己評価、学校関係者評価、職業実践専門課程の基本情報
(10) 国際連携の状況	留学生対象学科: 国際ビジネス科の特徴、取得を目指す資格
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ: 広報誌等の刊行物、卒業制作展等学校・学科が主催するイベントで情報提供

<https://www.jc-21.ac.jp/report/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 モバイルアプリケーション科) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職対策Ⅰ	一般常識や適性試験対策を中心に学習します。就活時必要となるエントリーシートや履歴書は、自己分析により適職を知ったうえ書き方を学びます。また会社訪問のしかたや面接はビジュアル教材を使い、実践トレーニングを行います。	1通	57		○			○			○	
○			プレゼンテーション	自らの考えをわかりやすく正確に伝えるためのプレゼンテーション技法とプレゼンテーション資料作成ツールであるPowerPointを学びます。	1後	57		△		○	○			○	
○			IT概論	情報の基礎理論・ハードウェアの基礎理論・アルゴリズム・技術動向などを学びます。	1前	114		○	△		○		○		
○			情報リテラシー	パソコンの基本操作からOfficeソフトの活用方法、ネット社会におけるモラルやセキュリティについて学びます。	1前	57		△		○	○		○		
○			データベース入門	データベースの基礎理論やデータベース管理システムの役割・障害対策・SQLの基礎などを学びます。	1前	57		○	△		○		○		
○			ネットワークセキュリティ	ネットワークの役割や基礎知識・ローカルエリアネットワーク・通信規約・通信機器・セキュリティの基礎知識・関連法規などを学びます。	1前	57		○	△		○		○		
○			プログラミング言語Ⅰ	オブジェクト指向の基礎を学んだ後Javaを学習します。加えて、Eclipse等の開発ツールの操作について学びます。また、企業連携実習授業を通して上流工程の設計手法を学びます。	1通	228		△		○	○		○	△	○
○			WebプログラミングⅠ	PHPとXAMPPを使ってサーバーサイドプログラミングやクライアントとサーバの連動について学びます。	1後	114		△		○	○			○	
○			スマホアプリ開発Ⅰ	Android、iPhone両方で動作する小規模なアプリの開発手法を学びます。	1後	85.5		△		○	○			○	
○			Webコンテンツ	HTML、CSS、JavaScript等を使ってブラウザ向けのアプリケーション開発の基礎を学びます。	1通	114		△		○	○			○	
○			Linux概論	Linuxの一般ユーザレベルの求められるスキルを学びます。基本的なテーマからLPIC認定資格の出題範囲までをカバーします。	1後	85.5		△		○	○		○		

○		就職対策Ⅱ	受験企業の研究、時事問題対策、面接訓練など、より実践的な就活トレーニングを行います。	2 前	57		△		○	○		○		
○		スマホビジネス	スマホビジネスの全体像を「Webマーケティング」と「Webディレクション」（要件定義、企画、設計）の分野と併せて学びます。	2 通	114		△		○	○		○		
○		プログラミング言語Ⅱ	1年次のプログラミング言語Ⅰの学習をさらに発展させ、スマホアプリ開発に必要なプログラミング能力にさらに磨きをかけます。	2 通	114		△		○	○		○		
○		WebプログラミングⅡ	1年次で学んだ内容をもとに、Ajaxやデータベースとの連動、CMSやPHPフレームワークといった実践的なテーマに取り組みます。	2 通	171		△		○	○		○		
○		スマホアプリ開発Ⅱ	Kotlin言語を使ったAndroidアプリの開発をメインに学習します。1年次で学んだ基礎をもとに、高度な技術を使った、かつオリジナリティを迫及した作品を作ります。	2 通	171		△		○	○		○		
○		RIAプログラミング	リッチな画面や機能を実現するためのRIA(Rich Internet Application)プログラミングについて学びます。Androidにおける自由描画手法を中心に学びながらHTML5のcanvas機能や各種ライブラリを使ったプログラム開発技術を学びます。	2 通	171		△		○	○		○		
○		卒業研究	2年間の学習の総仕上げとして、グループに分かれてテーマを決めてスマホアプリの設計開発、ならびに成果発表を行います。	2 後	228		△		○	○		○		
		○ ボランティア活動	校内外におけるボランティア活動を行います。	1 後 2 後	28.5		△		○	○		○		
		○ CGアプリケーション入門	3次元CGの初歩的な制作方法を実習を中心に学びます。	1 後 2 後	28.5		△		○	○		○		
		○ 英会話基礎	日常英会話の基礎を学びます。	1 後 2 後	28.5		○			○			○	
		○ コミュニケーションスキル講座	円滑な対人関係、組織の活性化、および、良いコミュニケーションに必要な「話す」「聞く」といった知識と能力を身に着ける。	1 後 2 後	28.5		△		○	○			○	
		○ 就職作文対策	就職試験で出題されることが多い作文について、基礎的な書き方やコツなどを学びます。	1 後 2 後	28.5			○		○			○	
		○ 経営とビジネス	技術者にも必要な会社における会計の基本と経営との関係について学びます。	1 後 2 後	28.5		○			○			○	
		○ 実践カラーコーディネート	配色調和、色彩心理などカラーコーディネートの知識を基に、対象別の実践的配色技法を習得します。	1 後 2 後	28.5		○		△	○			○	

合計	18科目	2052単位時間(単位)
----	------	--------------

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
2年間で1700時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	19週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。